

1. バングラデシュ:2012年の経済成長率は6.1%

バングラデシュの経済成長は世界経済の悪化に伴い、スピードを落とし2012年と13年には6.1%になるであろうと国際通貨基金が予測した。国内総生産(GDP)は世界危機にもかかわらず、昨年の会計年度には6.3%まで成長し、政府は2012年度7.2%を目標にしていた。しかし世界経済がスピードを緩めたことで、輸出を通して経済成長をしている新興国や発展途上国に影響し、輸出依存型経済成長は遅くなってきている。その結果、国際通貨基金はバングラデシュのインフレは緩やかになってきており、昨年度の10.6%から、今年度6.9%、来年度6.4%となるであろうと語っている。「低成長と不安定な高度経済は、貿易と金融チャンネルの両方を通じて、新興国市場や発展途上国の経済に影響し、国内成長を弱めている」と国際通貨基金のチーフ・エコノミスト、オリバー・ブランチャードは記者会見で語った。

2. ダッカで、女性企業家の育成支援のためのセミナー開催

財務大臣 AMA ムヒスはダッカの CIRDAP 会館で、バングラデシュ女性商工会議所(BWCCI)により開催されたセミナーに出席し、「訓練所にも優れた訓練士が大量に必要なが、国では良い訓練士が不足している」と話した。ムヒスの発言は女性企業家の育成と発展のために、予算配分から女性のための訓練所を設けてほしいとの要望に答えたものだ。さらにムヒスは「技術や経済問題を離れても、女性問題には焦点を当てなくてはならない。多くの場面で、女性の発展という点においてバングラデシュは先進国と肩を並べて進んでいる」と語った。これに対して、BWCCIのリーダーたちは、「この国では女性企業家のための特定のビジネスポリシーが不足している」と言った。このセミナーはバングラデシュ女性商工会議所(BWCCI)が、国際民間企業センターの協力を得て開催したものである。

3. アメリカ向け衣料品輸出 好調に推移

バングラデシュ衣料品の値下げとアメリカ経済の復調が、バングラデシュのアメリカへの衣料品輸出とうまくマッチした。綿の世界的値下がりと工場内の技術革新のおかげで、バングラデシュ労働者の生産性が向上し、バングラデシュの衣料品は低価格を保っている。その結果、海外のバイヤーは、バングラデシュへの発注を増やしている。

バングラデシュの衣料品輸出は、7~8月には8億9263万ドルに上った。昨年と同じ時期には8億6980万ドルであった。これは輸出振興局のデータによるものである。7月にバングラデシュから衣料品がアメリカに輸送された量は、一年前に比べると21.5%跳ね上がっている。この増加の背後にある要因は低いコストである。

バングラデシュ衣料メーカー輸出協会の元会長アンワール・ウル・アラムは、「中国が労働者不足と賃金の高騰のために輸出の機会を失ってきているので、バングラデシュのアメリカへの衣料品輸出は、今後も増え続けるであろう。しかも中国は衣料品生産を基本服から高級服へと移行させている。バングラデシュは基本服の市場で既に優位な位置に立っている」と語っている。

4. 縫製工場の一部で、犠牲祭前にボーナスの支払いを求めてボイコット騒動

10/07、ガジプール、サダールの二つの工場で、労働者たちが労働をボイコットし、イード(イスラム教の祭日)のためのボーナスを要求した。工場の労働者の一人は、金曜日の午後、工場側の担当者と同論したと語った。

ドディー・ファッションでも、ボーナスの支給を求めて労働者がボイコットを行った。労働者たちは、工場の責任者が彼らの要求を受け入れることを保証した後、また仕事に戻った。ガジプール工業地帯副警部補 Md.セリム・カンは、事件を確認し、状態は既に平静さを取り戻していると言った。

また既製服(RMG)労働者たちは、10/12、企業主たちに給料未支払い分、残業手当、ボーナスをイード前までに支払うように要求した。彼らはダッカ市内のジャティヤ・プレス・クラブの前でデモを行い、この要求をした。スピーカーは「多くの衣料業界主たちは、給料未支払い分、残業手当、ボーナスなどの一部のみを労働者に支払うことによって、労働者からイードの楽しみを奪っている」と語った。

5. バングラデシュ繊維業界の光と影

ここ2~3年、綿と繊維市場が困難な時代に入っている。バングラデシュは2012-2013会計年度に、196億ドルの繊維輸出を記録し、世界の綿と繊維業界でも有名となり、繊維部門の輸出で前例のない突出した成長を示している。数十年の間の何百万人の労働者のハードワークと、企業家の先見の明が作り上げた繊維をベースとした企業活動が実を結んだものと思われる。しかも今年度の輸出196億ドルは、わずか5年間の間にドルの価値で2倍に増えている。数々の分析でも見られるように十数年にもわたり世界中が最悪の経済危機に直面していたとき、バングラデシュはこの繊維部門

で揺るぎなき成長を果たした。

この数十年で、バングラデシュに繊維ブームを引き起こした要因は3つある。それらはリソース、チャンス、そして政策である。リソースには技術を持った豊富な労働力、低コスト・エネルギーや天然ガスが含まれている。3.0%の成長率、1億6千万という自立した国内市場は、業界へのすばらしいサポートである。ここ数年中産階級の一人当たりの所得は大幅に増え、生活様式は改善されていった。その上、誠実な労働力は必要なときに生産に間に合うように、労働時間さえも柔軟に延長するという対応を示してきた。

バングラデシュには既製服のために、MFA や GSA を通してヨーロッパやアメリカ市場にアクセスする莫大な機会がある。バングラデシュの企業家たちはこの市場を広げ、確実なものにするチャンスを掴んだ。政府から出された指示は繊維の成長を支えた。経済の自由化の政府の方針は民間部門の投資を促した。政府は繊維部門が優先部門であり、繊維業界のためのサポートシステムを導入すると宣言した。サポートシステムには財政金融の利益、組織のサポートも含まれている。

一番大切なリソースのうち二つは労働力とエネルギーである。これはバングラデシュではとても豊富で安い。競争相手の国々に比べると、安い賃金とエネルギーコストだ。労働力はわずか時給 23 セントである。一方、カンボジア、ベトナム、インド、中国やトルコではそれぞれ時給 33、38、51、55-108 セントとなっている。ガスエネルギーはインド、パキスタン、中国に比べるとそれぞれ 1 キロワットに対し 9.33、6.72、7.84 に比べバングラデシュでは 3 セント以下となっている。

繊維政策はそれに関連する企業や BLI(紡績)の成長を刺激するように、新しく計画された関税構成が導入された。紡績部門の輸入関税はないも同然であり、その一方ヨンや繊維には輸入を抑えるために重い税金をかけ、国内生産を増やすように奨励している。これらの要因はすべてバングラデシュの繊維産業が成長に対する便乗効果があった。結果としてバングラデシュの紡績産業は過去 20 年間驚異的な成長を見せている。バングラデシュでのリング紡績容量は 1996 年には 1.5 メートルのスピンドルにも達していなかった。この容量が 2011 年には 8.7m スピンドルに増えた。10 年後には約 6 倍に増えるであろう。同様に繊維部門の輸出も 1994 年の 15 億ドルから 2011-12 年には、196 億ドルと膨大な成長を見せている。ニット衣料の輸出量は 1993-94 年には織物衣料の輸出(12億9200 万ドル)の約 5 分の 1(2億6400 万ドル)であったが、2011-12 年にはほとんど同じ額に(織物衣料輸出の 98 億 3200 万ドルに対しニットは 97 億 6300 万ドル)となり、バングラデシュは織物衣料よりもニット衣料の方が輸出需要に追いついていることを示している。ニット衣料の品質とバングラデシュメーカーの競争価格の利点で、バングラデシュ製品はアメリカとヨーロッパ市場をますます占領することができるであろう。

過去数年バングラデシュは、200 億ドルのアパレル産業を支えるために綿の供給の源のため、大きな挑戦に挑んできた。インドはバングラデシュに綿を供給していた大切な源であった。しかし、ここ数年一番信用できず、頼ることのできない源のひとつになってしまった。2010-11 年の間に起きたいくつかの出来事はバングラデシュの綿業界の風景を変えてしまった。そしてこれらの出来事はこれから先、綿業界に衝撃を与えていくものと思われる。2010 年と 2011 年の連続したインド政府の綿輸出禁止は、コットン業界歴史の中でコットン市場が経験したことがないラリーの引き金となった。2010 年 4 月の輸出禁止の前まではインド綿は、バングラデシュ紡績の中でかなりの位置を示していたが、その後政府の輸出禁止を理由に、インド商人たちは大量の契約を白紙に戻していた。しかし輸入データはインドの綿は 2010 年 4 月だけでも 52,000MT というピークも含めバングラデシュに流れ込み続けてきた。不幸なことにその多くはバイヤーの元には届かなかったが、それらは便乗利益としてほかのバイヤーへと船積みされ、既上昇していた市価を利用していった。インドの商人たちはより高い値段の綿を利用するために、ほかのどこかに船積みするシステムを回避していた。

バングラデシュの繊維工場は、もっと信用できて頼ることのできる輸入先をほかのところ求めていた。インド商人たちによりパニックになったバングラデシュの買い手たちは、損害を回復させようと駆け回り、リスクも省みず、国際市場から手当たりしだいに輸入先を決めていった。これはバングラデシュの紡績企業の大部分が、必需品市場とそれに関連するリスクの知識に限りがあるからである。その上、バングラデシュの紡績業者は彼らの危険を避けるために先物取引などのような危険管理ツールには近づかない。結果として彼らは彼らの契約時の値段から 1ポンド120セント以上下がった市場価格のようなところにたどり着いてしまうのだ。この違いは会社全体に回復できないほどの財政的損害賠償を負わせるほど大きいものである。結果として海外の取引先の契約を大量に白紙に戻すことになるのである。このことは綿業界全体に汚名をさせたことになった。

6. インド向け衣料輸出の現状

バングラデシュのインドへの衣料輸出は、2011-12 会計年度の間約 5500 万ドルと、前年対比 32%以上伸びた。しかし輸出全体は 2.7%減少した。インドのハイコミッショナー・パンカジュ・サランは、「インドは 2011 年 9 月バングラデシュの既製服に対して免税、無規定数量を導入したので、アパレル輸出は上昇した。全体的な輸出の減少は、ジュート価格の低下によるものである。これはインドへの輸出の 23%を占めているものである」と語った。2010-11 にはバングラデシュは

180億ドル相当の衣料を輸出している。「インドへの輸出は一夜で10億ドル単位が増えるわけではない。これはインドの大型小売店の発展にもよるものである」と、バングラデシュ衣料メーカー輸出協会会長のシャフィウル・イスラムはデーリースターに電話で語った。「中国に対する輸出はインドに比べると速い速度で成長している。チェーンストアの仕組みがよくできているからである」と彼は言った。

7. D8への繊維製品輸出

バングラデシュはD8の国々の中で、アパレル貿易の大きな機会を掴むチャンスがある。D8はバングラデシュ、エジプト、インドネシア、イラン、マレーシアそしてトルコで成り立っている。BTMA会長のジャハンギール・アラミンは、D8の国々は世界の6分の1の人口に相当すると言っている。バングラデシュ衣料メーカー輸入協会(BGMEA)会長シャフィウル・イスラム・モヒウッディンは、世界不況の埋め合わせをするために地域取引に焦点を当てる必要があると語った。またトルコバングラデシュ商工会議所の書記長ムラド・カルカは「D8内で取引をすれば不足が埋め合わせられるであろう」と、言った。しかし現実には、バングラデシュのトルコへの既製服輸出は、2011-2012会計年度には3億5593万ドルとなり、前の年の5億1832億ドルから31.3%減少した。バングラデシュとトルコの間で両国の貿易の妨げになっている障害は、両国間の自由貿易協定の中で解決されなければならない。

8. 日本やロシアなどへのニット衣料輸出拡大方針

BKMEA 会長はアメリカや EC 諸国のような景気後退に襲われたこれまでの市場に頼ることを少なくさせ、新しい市場を開拓することを強調している。EC 諸国とアメリカはバングラデシュにとって 2 大輸出先で、バングラデシュの製品の輸出先としてそれぞれ市場の 51%、22%と占めている。BKMEA のプログラムによると、彼らは近いうちに、ロシアを訪問し、バングラデシュに膨大な利益の可能性のある未開発の市場開拓する予定であると、日本市場を開拓した経験を語りながら話した。新しい輸出相手国として日本がアパレルの最大である。昨年会計年度(2011-12)、日本は4億34万ドル相当の既製服を輸入した。日本への成長は63%に上る。新しい既製服輸出先として挙げられる国々には南アフリカ、ブラジル、オーストラリア、日本、チリ、中国、インド、韓国、メキシコそしてロシアが含まれている。これらの市場に徐々に輸出を強化すると BKMEA 会長は言っている。「我々は徐々に南アフリカとともにアジア諸国も開拓する」とオスマンは、既に南アフリカ代表団がバングラデシュを訪れていることを付け加え、語った。

BKMEAはバングラデシュニット商品の需要を増やす目的で、モスクワでニットフェアを開催した。フェアには120社が参加し、9/30に終わった。バングラデシュ・ニットウェアメーカー及び輸出協会(BKMEA)のリーダーたちは、ロシアの貿易商たちに国際水準のニット製品を輸出するよう申し出た。9/28、ロシア訪問中BKMEAの代表団は、モスクワのバングラデシュ・ミッション・オフィスで行われた記者会見でこの申し出をした。在ロシア大使の SM サイフル・ホックとBKMEAの第一副会長モハメド・ハテムは、記者会見で語った。AH アスラム・サニーとモヒウッディン・ファルキも会見でバングラデシュのニットを輸入することによりロシアに利益をもたらす方法を入念に説明した。ロシアのニット輸入者の関係機関と様々なニュースメディアがこの会見に参加していた。先に行われたロシア連合の外務省高官は、外国貿易を拡大するのを援助するために、バングラデシュに対して追加の貿易施設を用意することにした。彼らは9/27、モスクワで訪問中の BKMEA 代表団と会議を開いている。また彼らはバングラデシュ代表団に査証関係に関する問題についても協力する準備があることを確約した。南アジア局ディレクターとロシア外務省副ディレクターもこの会議に参加していた。

9. 鉄道運賃値上げ

政府は先月コンテナも含めて鉄道運賃を、110%まで値上げすると発表した。「既製服の生産コストはこの一年の間にガスや電気不足や政府による料金の値上げのため既に著しく上昇している。現在もし政府がコンテナの鉄道運賃を値上げすれば、それは国にとって自殺行為になるだろう」とBGMEA会長シャフィウル・イスラム・モヒウッディンは、10/14、新聞記者に語った。さらに「もしも政府がコンテナ輸送料金を元の運賃表に戻さなければ、この部門は現在の会計年度のための輸出目標に達することはできないであろう。このような危機の状態のときに、政府はどのようにしてコンテナ運送料金の値上げなど考えることができるのだろうか。ビジネス環境を改善できない上に、政府はガス、電気など何度も値上げしている」と続けた。

10. ダッカの電力供給にガスタービン導入

GEはスペインのアイソラックス・インジェニエリアSAとバングラデシュのサミット・コーポレーションの2社と、フレーム9F3シリーズのガスタービンを供給するため、合計8900万ドルの契約を交わした。これでバングラデシュの新しい二つのプラントで674メガワットの発電が可能になる。GEの高度な技術のガスタービン・プロジェクトはバングラデシュで初

めてであり、大きな電力供給効果と低公害で電気を供給することができる。この契約の下ではGEが、9F 3 シリーズガスタービンをひとつと部分品をアイソラックス・インジェニエリア SAに供給し、バングラデシュリミテッドの発電会社のためにシッディランジパワープラントを建てる事となる。

11. 製鉄工場の生産に遅れ

工場関係者によるとチッタゴンの約50の鉄工所で、ガスと電気の供給不足のため、ここ数ヶ月の間に生産が60%に減少した。国内鉄鋼生産の約65%を担う鉄工所では、政府の命令で日中の生産が終わると工場を閉めなくてはならず、その生産能力の36から37%としか利用されていない。

9/06、コノフリ・ガス・ディストリビューション・カンパニー(KGDCL)は鉄工所とほかの企業に書簡を送り、週二日ずつガス供給を止めることを通達した。ガス供給をチッタゴン・ウレア・ファーティライザー・リミテッドに転送するために、この処置がとられた。肥料の需要が増えてきたためであると CUFL の関係者は語った。「もしこの状況が長く続けば、多くの工場が破産するであろう」とバングラデシュ・オートマチック・ローリング・ミルズ協会の会長マストゥール・アラム・マストドは言った。BSRM の社長アーミール・アリフセインはチッタゴンにおける工場特に鉄工所でのガスと電気の制限は「不公平」と言っている。「制限は国内の60から70%の生産をしているチッタゴンの鉄鋼部門に、深刻な影響を及ぼしている。現在のガス不足を政府の適切なプラント不足によるものだ」と非難している。

13. タカ為替レート

1US\$ = 81.3027 ※昨年同期と比較し7.4%のタカ安

以上